

2002年4月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

北半球500 hPa 高度では、極付近で負偏差、中緯度域では概ね正偏差となった。太平洋ではアリューシャン列島付近を中心に顕著な正偏差が広く分布し、先月に引き続き、リッジがアラスカの南海上まで西偏した。北アメリカ南部から大西洋にかけて帯状に正偏差が分布した。一方、負偏差域は極付近から中央シベリア、カナダ、大西洋北部へ広がった。

対流活動は、太平洋西部で、平年は赤道の南側に見られる活動域の中心が、今月は赤道の北側に分布し、赤道の北側で平年より活発、赤道から10°S 付近で不活発となった。東部太平洋の赤道付近から南アメリカ北部、大西洋、アフリカの赤道付近にかけては平年よりも活発で、特に大西洋からギニア湾付近で顕著だった。インド洋西部から中部では平年よりも活発、東部は平年並、インドネシア付近でやや不活発となった。

200 hPa 速度ポテンシャルの分布図を見ると、対流活動の中心が赤道の北側に分布したことに対応して、太平洋西部の大規模発散域の中心は、平年に比べて北側に見られた。

SOI (南方振動指数) は-0.1で、ほぼ平年並だった。

世界の天候

①日本から華中の高温

月平均気温は東シベリアおよび日本から中国では高く、日本から華中で異常高温となった。

②華南の少雨

③中国から中央アジアの多雨

月降水量は東シベリアから中央アジアで多く、一部で異常多雨となった。

④中央シベリアからヨーロッパ東部の少雨

⑤ヨーロッパ北部の高温

月平均気温はほぼ全域で高く、北部を中心に異常高温となった。

⑥カナダ西部の低温

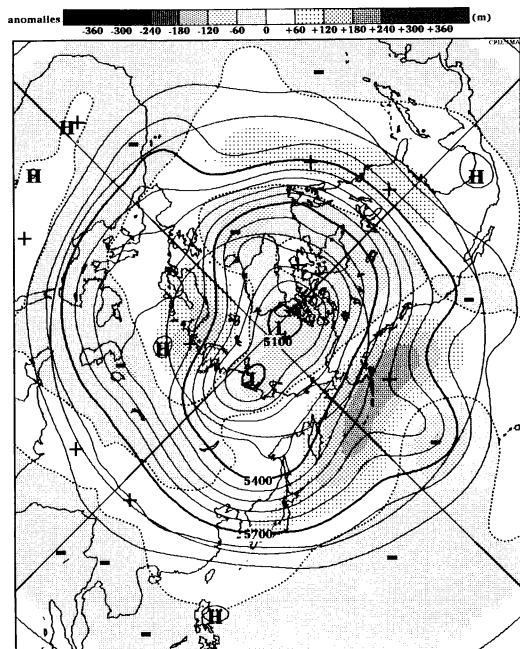
⑦米国東部からメキシコの高温

米国東部からメキシコでは異常高温となった。中旬には米国東部を中心に記録的な暑さとなった。米国東部とロッキー山脈の東側の各州で干ばつや森林火災が繰り返り報じられた。

⑧アルゼンチン北部の多雨

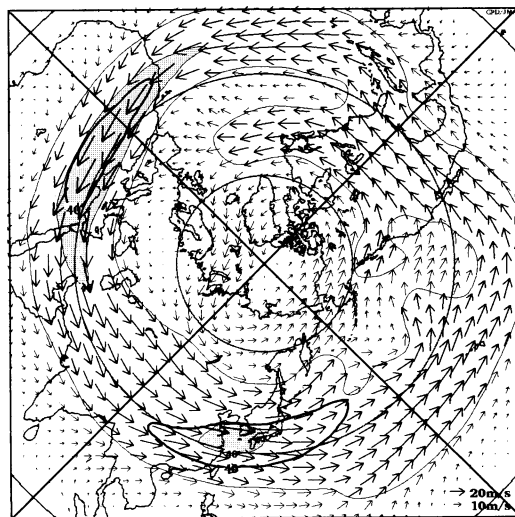
⑨オーストラリア南東部の高温

(気象庁気候・海洋気象部気候情報課 八木昌代)



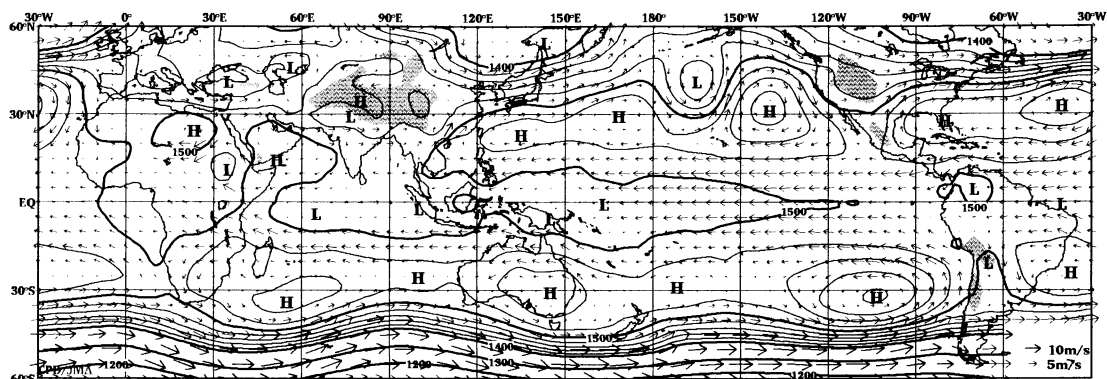
2002年4月の北半球月平均500 hPa 高度および平年偏差

等値線間隔は60 m, 偏差パターン間隔は60 m, 平年値は1979~1993年のECMWF15年再解析データによる。

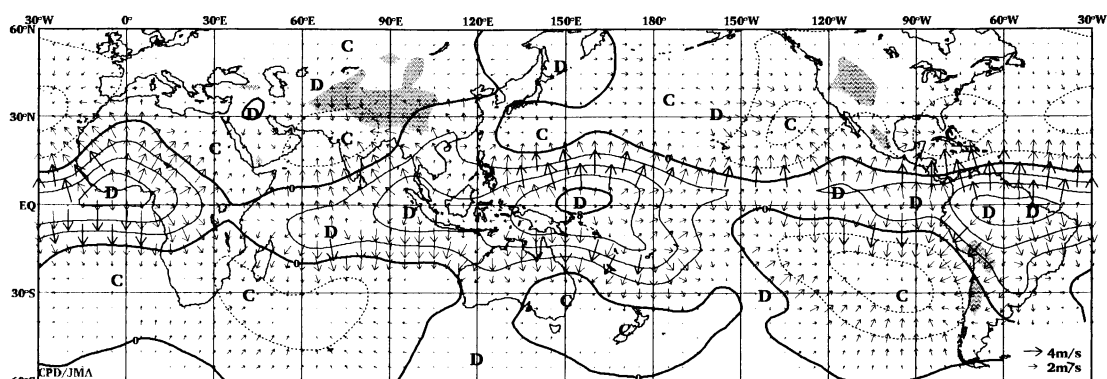


2002年4月の北半球月平均200 hPa 風速および風ベクトル

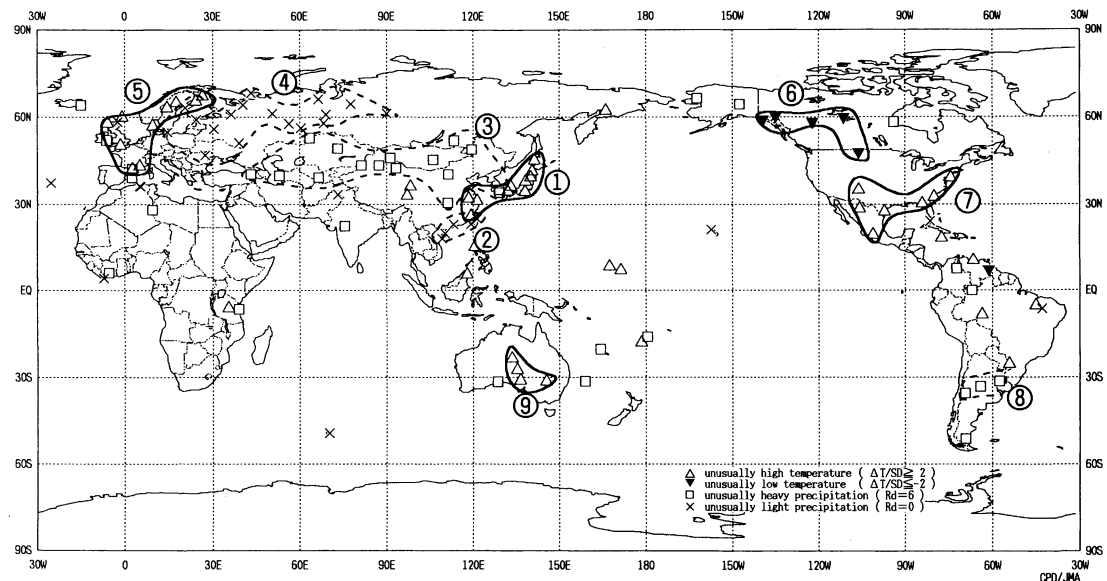
等値線間隔は20 m/s, 陰影部は40 m/s 以上。太実線で囲まれた領域は平年の40 m/s 以上の領域を示す。平年値は1979~1993年のECMWF15年再解析データによる。



2002年4月の月平均850 hPa高度及び風ベクトル 等値線間隔は20 m (1400 mまでは100 m)



2002年4月の月平均200 hPa速度ポテンシャルおよび発散風ベクトル 等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$



2002年4月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
 異常高温・低温は標準偏差の2倍以上, 異常多雨・少雨は降水5分位値が6および0. 図中の番号は本文中の番号と対応している.